

会議名	平成29年度 第2回スポーツによるまちづくり推進委員会
開催日時	平成30年3月27日(火) 18時30分から20時00分
場 所	市役所3階 第1委員会室
出席委員 (10名)	平中 政明、佐藤 俊子、重永 澄恵、岩間 英昭、高橋 睦美、 野村 一也、宇都宮 直樹、日高 功一朗、原井 敬太、 塩田 賢二
欠席委員 (6名)	水田 三代春、平田 武、宮川 力雄、千々松 正俊、瀬口 康道、 銭谷 辰典
傍聴者	なし
担当課及び 出席者	文化・スポーツ振興部：姫井部長 スポーツ振興課：川崎課長、熊野主任 文化・スポーツ政策室：舩林室長、隈田主事
会議次第	1. 辞令交付 2. 委員長あいさつ 3. 議題 (1) 第二次山陽小野田市総合計画(スポーツ振興関係)について (2) 平成30年度スポーツによるまちづくりの取組みについて 4. その他
委員長 事務局	1. 辞令交付 2. 委員長あいさつ 3. 議題  (1) 第二次山陽小野田市総合計画(スポーツ振興関係)について、 事務局から説明
委員	第二次山陽小野田市総合計画の中の目標指標に掲げているスポーツボランティアのPRはどのような方法で行っているか。また、スポーツ施設の充実と掲げているが予算額はどれくらいか。
事務局	スポーツボランティアのPRについてはスポーツ大会・行事の参加者に声かけし、直接ご案内をしている。また、スポーツボランティア登録者にご紹介のお願いの案内を送付してPRしている。現在、広報の掲載をしていないため、今後広報の掲載も検討したい。スポ

委員	<p>スポーツ施設予算の額は修繕箇所の関係で予算の変動があるが、平成30年度は修繕の経費が200万円ついている。また、市の体育施設は指定管理となっているため、指定管理業者と協議しながらスポーツ施設の整備を計画する。</p> <p>ボランティア登録のPRを幅広く行って欲しい。具体的にボランティアはいつ、こういった事を行うのか等を具体的に伝えていけば、市民が関心を持つと思う。</p> <p>スポーツ施設の充実は公共施設再編の計画等を考慮しながら、長期的なビジョンを見据えて協議し、計画的な予算を立ててほしい。</p>
委員	<p>私はスポーツボランティアの登録を長くしている。県からボランティアの案内が届くが、県内の駅段大会やマラソン等の陸上競技のボランティアの依頼が多い。</p>
委員	<p>学校体育におけるスポーツの考え方として、「する」「観る」「支える」に加えて、スポーツを「知る」という考え方が新しく出てきていて、「共生社会」という言葉をよく聞くようになった。学校体育での共生社会とは、「オリンピック」、「パラリンピック」と区分けするのではなく、ルールを工夫して健常者と障がい者が一緒にスポーツを楽しむという視点でとらえたものである。山陽小野田市では「スポーツによるまちづくり」と「文化によるまちづくり」とあるが、「スポーツ」を「文化としてのスポーツ」という一体的な考え方でとらえたらどうだろうか。「文化」を人間の生活・精神活動を豊かにする対象とするならば、素晴らしいスポーツ観戦をすることと素晴らしい芸術活動を鑑賞することに、違いはないと思う。今後の文化・スポーツの振興を推進していくうえで重要な考え方だと思う。</p>
事務局	<p>スポーツを「する」「見る」、「支える」だけでなく、「知る」という捉え方を参考にしながら、スポーツを通して市民の皆が元気になる努力をしたいと思う。パラサイクリング等を活用して障がい者に対する理解などを進め、「共生社会」を目指していきたいと思う。スポーツの会議で「オリパラ一体」という言葉をよく聞くが、本市ではパラサイクリングの事業で障がい者・健常者を分けずに一緒にスポーツする取り組みを昨年度から始めている。平成30年度以降にスポーツによるまちづくり推進計画等の見直しをするので、今回のご</p>

	意見も参考にしながら進めていきたい。
委員	今回、市民館耐震化工事に伴い数年ほど市民館体育ホールが使えなくなるが、その間の代替施設はどうなるのか？
委員	自身で他施設を探して利用していただいている方もいらっしゃる。相談をされる利用者もいらっしゃる。相談があった利用者に対して、他施設の空き状況を確認しご紹介している。工事期間中も利用者がスポーツを続けていただけるように取り組んでいきたい。
事務局	(2) 平成30年度スポーツによるまちづくりの取組みについて
委員	スポーツ交流施設の稼働率やレノファ山口 FC が使われた時の使用料を知りたい。
事務局	施設の稼働率については、レノファが練習目的で週4日から5日ほど利用している状況であり、一般の方は会議等の目的で年に10回ほど利用している。使用料金については、レノファが建物の6割を占有使用しているため、市の基準に基づき契約を締結し年間で180万の使用料を払ってもらっている。また、施設の光熱水費は使用した2分の1の金額をレノファに請求し、月額で7万から10万を支払ってもらっている。
委員	稼働率は7割から8割くらいで、試合の日以外はほとんど毎日使われているということか。
事務局	週4日～5日はレノファが使用しており、稼働率は高い。レノファの練習が山陽小野田市で使われているということをPRし、サッカー場の集客増やし、市民の方々にレノファとたくさん触れ合ってもらいたい。
委員	パラサイクリングについてまだPRが足りないのでは。市民に認めてもらわないとパラサイクリングのキャンプ地誘致につながらない。昨年12月に行われたジャパン・ライジング・スター・プロジェクトのフォーラムのように、周知する機会を増やしてほしい。せっかく山陽オートレース場で練習をしているのもっと多くの

	方々に知ってもらいたい。
事務局	パラサイクリングのPRについては力を入れていきたい。市の水道局の作っている「森響水」のペットボトルラベルにパラサイクリングのイラストを掲載するPR事業をすすめている。その他にも色々とPRに取り組んでいきたい。
委員	レノファの試合時にブース出展をされていたが、他の市とくらべて少し貧弱だった。ホームゲームでレノファのブースを出すのだったら、他の市に負けないような山陽小野田市のPRをして欲しい。
事務局	3月25日にレノファの本部ゲームがありブース出展した。きららガラス未来館と連携しジェルキャンドル体験を行った。キャンドルの中に選手のユニフォームやサッカーボールのガラスパーツを入れて特別なジェルキャンドルを作ることができる内容であり、大好評であった。レノファと連携して山陽小野田市とガラスのPRも行っていきたい。
委員	健全者の方やご年配の方ができるボッチャの大会が山陽小野田であれば良いと思う。
事務局	厚狭の複合施設で、障害者スポーツの取り組みを広げようとする活動を今年開催すると聞いている。現時点でボッチャがあるかは分からないが、そちらの紹介ができればよいと思う。
委員	松原分校の体育の授業でボッチャを行っているが、今年の県大会で準優勝されたと聞いている。
事務局	赤崎の松原分校では体育の授業で定期的に1年前から練習し、ボッチャの練習を熱心にされていると聞いている。市と連携できることがあればしていこうと思う。
委員	障害がある子どもにスポーツさせることを躊躇されていらっしゃる保護者が気になっている。申込や募集時等に事前に障がいがある方の情報があれば、受入れ体制等を整えることができ、障害がある子どもでもスポーツを楽しむことができるので検討してほしい。

事務局	事前に把握できる分に関しては、できる限り情報提供させていただく。
委員	前期目標値があるが、年度ごとに目標した方がいいのではないか。特にスポーツボランティアは年度毎に目標設定をしていけば、早い時期に目標達成できると思う。また、総合型地域スポーツクラブの設立数という指標があるが、総合型地域スポーツクラブというのがどのようなものなのか周知されていないので、しっかりPRをしていく必要があると思う。
事務局	ボランティアの年度ごとの目標も必要であり、登録者数を増やすだけでなくボランティアに携わる方を増やしていきたいので、検討していきたい。総合型地域スポーツクラブが分かりにくく、周知できていないというのが事実であるため、各地域に出向いて行きながら話をし、理解や地域のコミュニティーなど広めていきたいと思う。
委員	県内の他市などと比べてこのボランティア人数は多いのか、少ないのか。
事務局	現状では他市の情報は分かりかねる。
委員	他市と比較することも大事だと思うので、ぜひ調べて比較していただきたいと思う。
事務局	他市の情報がまた次回までに分かればお伝えしたいと思う。
委員	パラサイクリングのPRが足りないと思う。見学に行きたくても、どこで何をしているのかがよくわからないので、様々な方法でPRをしっかりとっていただきたい。
事務局	直近のパラサイクリング合宿は、4月17日～23日までパラサイクリング連盟が練習合宿を行う。また、昨年から「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」でパラサイクリング選手の新人発掘事業を行っており、20日～23日に新人強化選手が来られる。市のホームページ等でお知らせしていき、一人でも多くの方に応援

	や見学に来ていただけるようにPRしていく。
委員	レノファ山口の練習がいつ行われているかよく分からない。市の広報誌などに載せるなどPRをしてほしい。
委員	レノファ山口に関しては、事前告知が難しい。早めに練習情報を告知してしまうと、対戦チームが偵察に来る問題があるので、市では直前等でないとなかなか告知やPRに踏み切れない。早く告知ができる練習試合等が年に数回はできないかと、レノファ山口と相談して検討していく。
委員	練習の時間帯は決まっているのか。
事務局	時間帯は1週間サイクルで大体は決まっているが、その日ごとに変更もあるため、時間帯の把握が難しい状況である。
委員	子どもたちは、スポーツをする子としない子の2極化がすすんでいると見受けられる。スポーツをしない子がスポーツに取り組むような方法等を考えて頂けると、スポーツによるまちづくりが推進されると思う。学校の体育館等を生徒下校後にスポーツ施設として使ってもらえればと考えたが、使用料金の集金や事務の負担が大きくなってしまふ。事業としては良いことであるが、使用申請事務や集金等を学校任せにするのはどうかと思う。処理の方法を単純化し、検討していけば良くなると思う。
委員長	学校の施設利用に関して、市の教育委員会等の会議でも取り上げて実態等を含めて検討していきたい。
委員	パラサイクリングの選手を招いての講演会は、これからも続けてほしい。スポーツを「する」「観る」「支える」、そして何よりも「知る」にあてはまる。子どもたちがパラサイクリングを知り興味を持ったりすることで、とても影響があると感じる。
委員	4月に機構改革があるが、重点プロジェクトの位置づけは変わるのだろうか。

委員長	<p>組織が変わっても、人が変わっても、考え方や基本的な方針は変わらない。</p> <p>4. その他</p> <p>異議なし。</p> <p>以上で会議を終了する。</p>
-----	---

